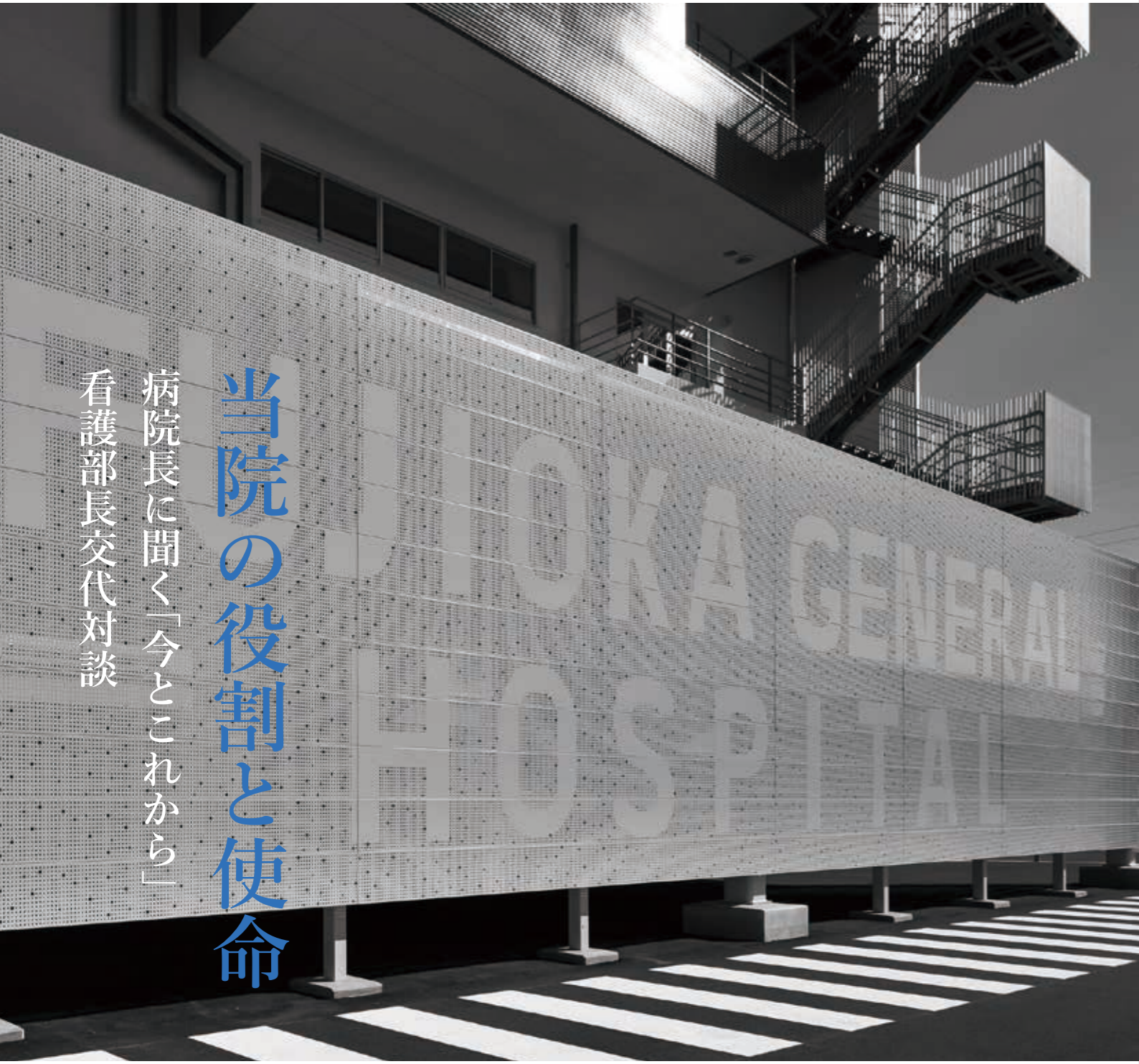


多野藤岡医療事務市町村組合  
公立藤岡総合病院広報誌

# SASAEAI 2020 No.33

さ さ え あ い



当院の役割と使命  
病院長に聞く「今とこれから」  
看護部長交代対談

ご自由にお持ちください

多野藤岡医療事務市町村組合  
公立藤岡総合病院 広報誌

SASAEAI ささえあい 2020 No.33

〒375-8503 群馬県藤岡市中栗須813番地 1 公立藤岡総合病院 経営管理部 経営戦略室  
TEL 0274-22-3311 (代表) / FAX 0274-24-3161



## 編集後記

当広報誌の校正を練り始めたころ、当院の職員駐車場の道向かいに位置する藤岡中央高校から暖かいメッセージが届きました。(写真上)また新町かぜいろうことも園からは可愛らしい応援イラストと手作りの使い捨てエプロンが届きました。(写真下)これに限らず様々な方々から沢山の寄付をいただいております。

感染症指定医療機関である当院は新型コロナウイルス感染症患者を受け入れ、最前線では医師や看護師、メディカルスタッフが対応にあたっています。皆様の温かい応援、お心遣いが大変みんなの胸に染み込みます。

感謝のメッセージは医療従事者へ送られるものがフォーカスされていますが、医療従事者に限らず、インフラの整備に携わる方々、物流を扱う方々、生活必需品を提供してくれる方々、事業を縮小して身を削る思いで感染防御に尽くしていただいた方々、また外出を控える全ての皆様、それぞれの立場で新型コロナウイルスと戦い、多くの方々が最前線で働いています。

全ての方々に敬意と感謝を申し上げます。

「本当にありがとうございます。」

広報担当



多野藤岡医療事務市町村組合  
公立藤岡総合病院

公立藤岡総合病院

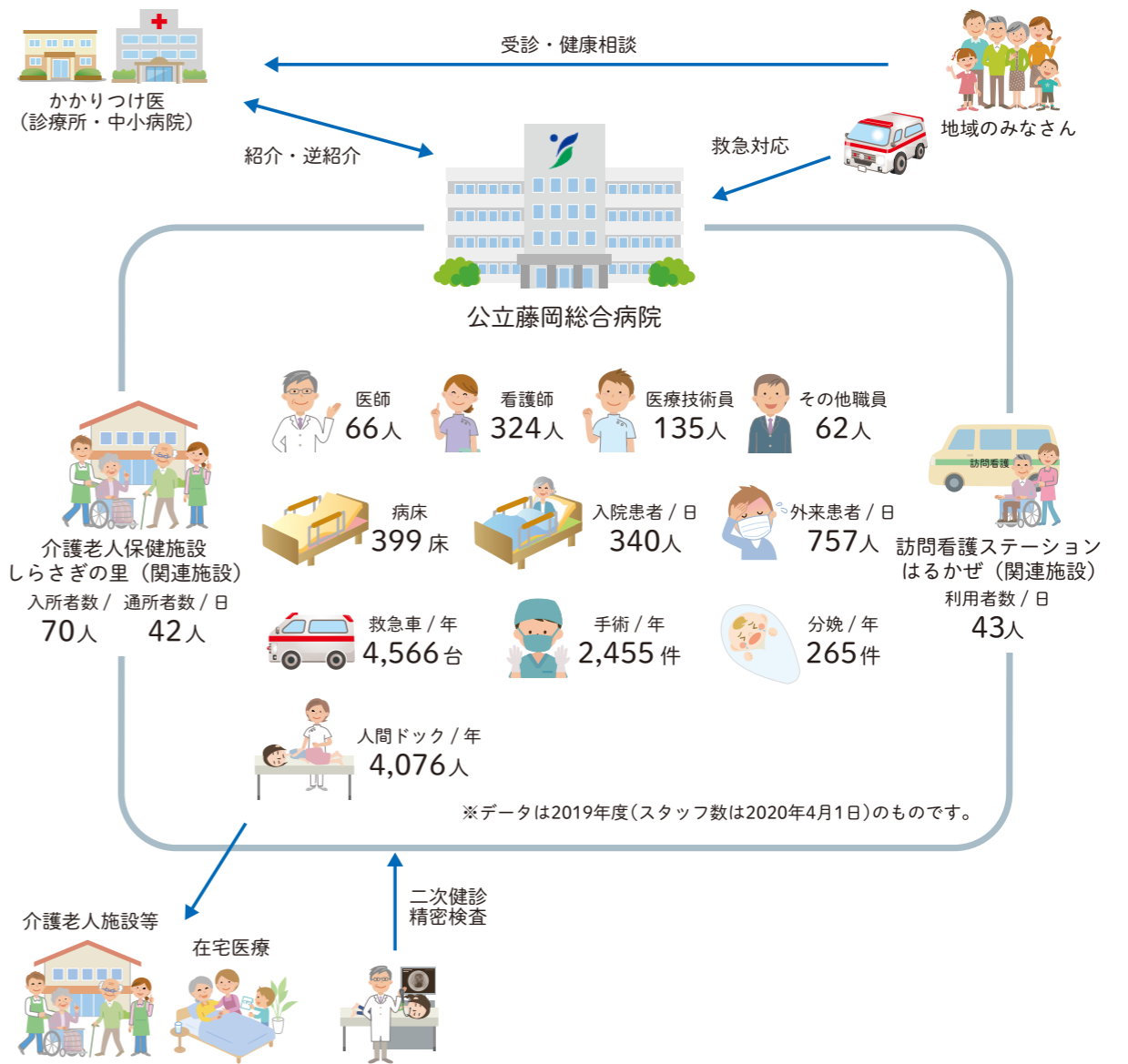
【表紙】今回より「ささえあい=SASAEAI」をリニューアルしました。より多くの方々に手にとってもらい、当院のことを知ってもらえるように、企画・作製していきたいと思っています。写真は当院西側に設置されている救急車搬送ゲートです。

多野藤岡医療事務市町村組合  
公式Instagram  
@fujioaka\_general\_hospital

# 当院の 役割と使命

公立藤岡総合病院は、1951年(昭和26)に開院してから70年間、地域の中核病院として、地域医療に貢献してきました。1日あたり700名以上の方が外来診療に訪れ、300名以上の方が入院生活を送っています。「地域住民から信頼される医療」の理念を基に、これからも新しい時代の中核病院に相応しい役割を担っていきます。

疾病に対して適切な医療を提供するだけでなく、疾病の早期発見や予防のための生活指導の場としての健診事業にも力を注いでいます。また在宅の高齢者に対して年々需要が増している訪問看護ステーション「はるかぜ」による看護・リハビリの業務も拡大の一途です。介護老人保健施設の「しらすぎの里」も慢性期患者さんを受け入れる介護施設として必要不可欠であり、病院と密接な連携を図っています。「地域の皆さんが安心して医療を受けることができるより良い医療環境を整える。」それが当院の課せられた使命であると考え病院運営を行っています。地域の医療ニーズに応え、切れ目なく医療・介護・福祉機関とも連携しながら、安全安心な適切な医療サービスを提供していき地域の皆さんの健康の維持・増進を図る基幹病院の役割を果たし地域の発展に貢献していきます。



# 病院長に聞く

「今とこれから」

猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、ひとまず群馬県においては一段落しましたが、既に大都市では緊急事態宣言の解除後も早くも再流行の兆候が見えており、我々も決して楽観できません。発熱外来の対応、感染者用の診療空間の確保は具体的な課題であり、病院としてはすでに一定の経験を積めたと思います。一方、今後間接的な影響として、経済の混乱により健康を悪化させた方が医療現場において多くなるのではないかと懸念もあります。第二波としてどのような規模の感染症の再流行が生じるかも全く未知数です。医療現場がこれまで以上の激しい変化に見舞われる可能性もあります。社会経済のことはともかく、我々の役割は、これまで培ってきた平常時の診療機能を継続しつつ、応急的な感染症治療に万全の態勢で対応することにあります。そのためにはコロナウイルスの院内感染を引き起こさないこと、スタッフが市中の感染を職場に持ち込まないことが何より重要です。当分気が抜けない日々が続きますが、注意深い楽観(cautious optimism)を心がけて業務に励みたいものです。「三密」がやがて懐かしい流行語として回想される日が来ることを期待して。

病院長 塚田 義人 yoshito tsukada

- 1987年 群馬大学医学部卒業 第三内科入局
- 1993年 群馬大学医学部大学院卒業 医学博士取得
- 1996年 メルボルン/モナッシュ大学 留学
- 1998年 群馬大学医学部 第三内科助手
- 2000年 群馬大学医学部 第三内科講師
- 2002年 公立藤岡総合病院 腎臓リウマチ内科勤務
- 2014年 公立藤岡総合病院 病院長補佐、兼研修管理センター長
- 2019年 公立藤岡総合病院 病院長

地域医療って何？と疑問に思われるかと思いますが、地域住民が抱える様々な健康上の不安や悩みをしっかり受け止め、適切に対応するとともに、安心して暮らすことができるよう、見守る体制を整えた医療機関です。また当院はかかりつけ医で行うことが難しい専門的な検査（MRI・磁気共鳴画像法等）や、地域の他の医療機関では提供することが困難な医療機能（出産・緩和ケア等）が必要となった場合に対応する設備を備えています。

地域の先生方と連携を密にし、みなさんを支えています。



# 1 地域医療



# 2 救急医療

24時間365日体制で年間1万人以上の救急患者の受け入れを行い、救急車の受入れは4,300件（過去3年間平均）の対応をしています。また、救急専用病床や高度治療室（一般病棟では治療が難しい患者さん）を備えています。特に脳血管障害や急性心筋梗塞などの患者さんについては、周辺地域の医療機関と連携を取りながら、積極的に受け入れを行っています。



# 4 小児・周産期

母体および胎児のハイリスク妊娠に対する医療・比較的高度な新生児医療を提供します。また一般的な不妊症の検査、治療、人工授精の提供を行っています。

小児科では通常の診療の他に、夜間休日は群馬県西毛地域の病院と協力し輪番体制を組み当番診療を行っています。当番医療機関については、こども電話相談（#8000）や最寄りの消防本部（24時間対応）、「群馬県統合型医療情報システム」で調べられますのでご利用ください。

# 6 当院の 6つの 使命

当院は地域災害拠点病院の指定を受けています。県内や近県で地震・台風・噴火等の災害発生時に24時間体制で傷病者の受け入れや災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team「DMAT」）の派遣を行う機能を持った病院です。感染症医療では第二種感染症指定医療機関として新しい感染症にも対応できるよう施設の整備や対応訓練を行っています。感染症病床4床を設備し、感染症患者の検査から入院治療を行い地域の感染症医療に努めています。



# 5 災害・感染



# 3 がんチーム医療

地域がん診療連携拠点病院として、さまざまな領域のがん患者さんを受け入れ、集学的な治療を行っています。また、緩和ケア（がんと診断されたときから行う、身体的・精神的つらさなどをやわらげるためのケア）や、外来での抗がん剤治療も積極的に行っています。

緩和ケアセンターでは専門資格を有するスタッフや、患者さんやご家族からがんに関わるさまざまなご相談をお受けし、多職種と連携を図りながら希望に応じた支援をさせていただきます。



# 6 教育研修

医学部を卒業し医師免許を取得した医師に対して基本的な手技、知識（初期研修）を身につけるために経験を積む病院として教育・研修体制を整えた医療機関です。毎年約7名の研修医を受け入れ、総合病院のメリットを活かした総合的な診療能力を効率よく身につけることができる環境が整っています。

研修医に限らず、看護やその他の職種の学生実習の受け入れも行っており、年間約900人の学生の研修の場として貢献しています。



高田幸子

前：群馬大学医学部附属病院 副看護部長  
現：看護部長

対談

田村幸子

前：看護部長  
現：患者支援センター入退院支援室(再任用職員)

## 看護部長交代

2020年3月をもちまして看護部長の田村幸子が定年退職となり、新たに群馬大学医学部附属病院から高田幸子が当院へ赴任し、現在、看護部長を務めております。

# 看護部を束ねるトップの交代

## 受け継ぐもの、看護の在り方、それぞれの想い

田村前看護部長。看護部長としての一番の成果と苦勞について教えてください。

田村 看護部長としての2年間はあっという間でした。1年目は、1年の行事をこなすのに目まぐるしく時間が過ぎていった感じで、次から次へと目の前に新しいものが飛び込んできました。看護部長に就任したのが、入院棟と外来棟が統合して、新病院が開院してちょうど半年の時期だったので、外来センターと入院棟の互いの業務のギャップを近づけていく(標準化していく)ことが課題だったと思います。2年目は、歴代の看護部長が築き上げてきたものを崩さないように、看護部の歴史を引き継いでいかなければとの思いでした。2年目から自分が目指すもの、やりたい方向性が少しずつ見えてきたかなって思います。

お二人にお聞きします。看護師を目指したきっかけは何ですか？

田村 きっかけ？私は随分昔の話になりますが(笑)。幼い頃、病院通いが多くて週末になるとよく熱を出して夜間救急にかかっていました。その頃から医療職になる

や状況に合わせて対応しています。改めて私は、皆さんの力に助けってもらって管理ができていたのだと感じました。

今後の公立藤岡総合病院の看護の在り方について、どう考えていますか？

高田 大学病院で起こった医療事故は私の看護観を一つ変えたかなと思います。やはり医師だけが方向性を決めるだけではダメで、そこにきちんと看護師とメディカルスタッフが関わってチームとして患者さんに関わっていかなければならぬと実感しました。現場としての意見を、組織としてそれをうまく吸い上げられることが重要だと思います。看護は特に患者さんの一番身近にいて、医師とも一番関わるところで十分に看護の力が発揮できていなかったと感じました。治療は医師が主導ですが、そこに、ただ従うだけでなく横並びになってそういったことを話せる状況に看護師がならなければいけない。知識も経験も技術もそうだけれど、看護師として「自律」自立ではなく自分を律するスタンスの看護師を育てていかないと、チームとして対等に患者さん本位の医療を提供できないと思っています。指示待ちではなく、医師の意見を踏まえて、じゃあ看護の立場として何が患者さんにベストなのかを把握できて情報が得られるスタッフを育てていかないと、やっぱり看護は広がっていかないと思います。それに伴って看護の質も上がっていくんじゃないかなって思います。

田村 以前、高田さんとお話した時に、今(私の時代)の看護部の現状と、高田さんが



## 習慣にとらわれず

## 看護師としての「自律」

ことを意識していたと思う。自分の力量を考え、色々と職種がありますが最終的に看護師を選択しました。

高田 私は、小学4、5年生の夏休みの宿題で、あの「ナイチンゲール」を読書感想文の宿題で読みました。その時に「こういう仕事はやっぱりいいな」とぼやーと思っていて、中学3年の進路相談の時に資格を取って責任もつてやれる仕事がしたいと思ったときに、看護師がリンクしました。また、高校の担任の先生が看護の短期大学へ進学した先輩に会わせてくれました。そこで先輩方の話を聞くことで現実味になり、その大学に入りました。

田村 最終的には資格が欲しかったと思います(笑)。資格は一生ものですから。田村さん。退職してから見える病院の景色は、どうですか？

田村 現在、再任用職員で現場の一員として業務をしています。今までは真ただ中にいたけれど一歩引いてみると現場で働いている人たちの活躍が身に染みてわかります。現場の人たちは、各々が責任もつて患者さんや家族を想い、それぞれの状態

お話してくれた課題が合致していました。また、高田さんが外部から来てくれたということが、今の看護部の改革に大きく関わるのではないかなって心強かったです。「慣習にとらわれる事なく、外からの新しい風を入れて下さい」とお願いしました。

最後に、お互いにかける言葉を聞かせて下さい。

田村 新しい病院、新しいスタッフ、そしてコロナウイルス対応の真ただ中での大変な時期に就任されたことは本当に心細さがあった大変だと思えます。私が看護部長に就任した時は、長年育った組織の中で、就任させてもらったので、院内スタッフとは顔見知りだし、気兼ねなくスタッフに相談できました。見ず知らずの環境の病院に飛び込むことはとても勇気がいること。周りの人たちに相談して支えられながらやっていってもらえたらと思います。まだまだ長く勤務してもらわなければならぬので、体を壊さないように。

高田 就任する前に、田村さんから色々とお話を聞かせていただいて、私は大学病院しか経験がありませんが、やっぱり外がどうゆう状況なのかをスタッフに知ってもらいながら視野を広くもってもらって、組織としてどういう方がいいのか、皆と話し合っていきたいと思っています。公立藤岡総合病院で培ったものに新しいものをプラスして、さらに進めていければと思います。田村さんぜひ、お力を貸して下さい。





## 登録医のご紹介

# あいおいクリニック

総合内科専門医として、高血圧、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症などの生活習慣病やアレルギー疾患の治療、何科を受診すべきかわからない不調の相談、健康診断、予防接種を行っております。特に生活習慣病に関しては、合併症を防ぎ、生活の質を落とさないことを第一に考えた治療を行います。腎臓専門医、透析専門医として慢性腎臓病の予防と治療を行う他、高齢の患者様においては、年齢とともに衰える腎臓の機能を評価し、薬による有害作用を予防するために内服薬の調節をおこないます。また、通院が困難になった患者様のために、訪問診療を積極的に行っております。

## 院長 高木 智恵子

Chieko Takagi

2019年11月に井田医院を全面改装して開業いたしました。当院の理念である「共に生き(相生)、共に老いる(相老)、あなたに寄り添う医療」から“あいおい”クリニックと名付けました。かかりつけクリニックとして地域の皆様に寄り添っていければと思っております。



〒375-0024 群馬県藤岡市藤岡2113-1 TEL0274-24-8811 FAX0274-50-8814  
診療時間：午前9:00～12:00 午後3:00～6:30  
※金曜午後は往診日となります。土曜午後は2:00～4:30時までです。

## 当院からのお知らせ

### 敷地北側の入り口を開放

7月1日より

これまで、公立藤岡総合病院敷地北側の入り口は一般車両の進入を禁止していましたが、7月1日より一般車両の入口専用として開放します。敷地内の安全のため、北側入口からの進路は一方通行となります。

お帰りの際は、これまでどおり東側へ退出をお願いします。



## 公式Instagram始めました

ホームページや広報誌では載せきれない、当院の取組や些細な日常を紹介していきますので、是非ご覧になって下さい。  
多野藤岡医療事務市町村組合公式 Instagram @fujioka\_general\_hospital  
当院ホームページからご覧いただけます。



スタッフに聞いてみました  
当院のちょっといいところ！

1.呼吸器内科医「廊下が広くて眺めも良く、いつも気持ちよく仕事ができます」 2.ソーシャルワーカー「スタッフみな、相談しやすいところ」 3.看護師右「レベルに合った教育制度があり、安心して看護が学べる」左「活気のある職場」 4.理学療法士「急性期、回復期、外来、老健、訪問と患者さんの様々なステージで生活支援が出来る」 5.管理栄養士「多職種の方とも仕事の話以外でも気軽に話しやすいところ」 6.診療放射線技師「売店の焼き立てのパンが美味しい」 7.歯科衛生士右「多職種連携が密なところ」中「職員に対するの福利厚生がしっかりしている」薬剤師左「病棟に薬剤師が常駐している」 8.臨床工学技士「充実した健康診断が受けられる」 9.呼吸器内科医・研修医「患者さんやスタッフとすれ違う時に挨拶が行き交うところ」 10.臨床検査技師「部署内の伝達が確実でスムーズなところ」